

令和元年度

事業実績報告

社会福祉法人 信濃川令終会

目 次

第1 施設の概要	1
----------	---

第2 事業所別事業実績報告

(1) 岡 南 の 郷

① 特別養護老人ホーム岡南の郷	5
② ショートステイ岡南	10
③ デイサービスセンター岡南	13
④ グループホームこうなん	17
⑤ 居宅介護支援事業所岡南	20
⑥ ケアハウス岡南	22

(2) せ っ た や の 郷

① デイサービスセンターせったや	26
② グループホームせったや	29

(3) 看護室

看護室	31
-----	----

第3 苦情受付状況	32
-----------	----

第4 研修の状況	34
----------	----

第1 施設の概要

1 経営主体

名 称	社会福祉法人 信濃川令終会
所 在 地	新潟県長岡市渡沢町字早田53番地
理 事 長	小野澤 豊
認可年月日	平成12年7月25日

2 施設の名称等

(1) 岡南の郷

施 設 の 名 称	サービスの種類	定員	開設年月日	指定(更新)年月日	介護保険事業者番号
特別養護老人ホーム岡南の郷	介護老人福祉施設	82名	平成13年4月9日	平成26年4月9日	1570200897
ショートステイ岡南	短期入所生活介護	11名	平成13年4月9日	平成26年4月9日	1570200905
デイサービスセンター岡南	通所介護	29名	平成13年4月9日	平成26年4月9日	1570200889
グループホームこうなん	認知症対応型共同生活介護	18名	平成14年6月1日	平成26年6月1日	1570201077
共用型デイサービスこうなん	共用型認知症対応型通所介護	6名	平成30年8月1日	平成30年8月1日	1570201077
居宅介護支援事業所岡南	居宅介護支援		平成13年4月9日	平成26年4月9日	1570200863
ケアハウス岡南	軽費老人ホーム ケアハウス	15名	平成13年4月9日		

(2) せったやの郷

施 設 の 名 称	サービスの種類	定員	開設年月日	指定(更新)年月日	介護保険事業者番号
デイサービスセンターせったや	通所介護	25名	平成21年4月1日	平成27年4月1日	1570202810
グループホームせったや	認知症対応型共同生活介護	9名	平成21年4月1日	平成27年4月1日	1590200224
共用型デイサービスせったや	共用型認知症対応型通所介護	3名	平成30年8月1日	平成30年8月1日	1590200224

3 施設規模

(1) 敷地面積

- | | |
|----------|--------------------------|
| ① 岡南の郷 | 12,770.13 m ² |
| ② せったやの郷 | 1,372.22 m ² |

(2) 建物面積

- | | |
|----------------------------------|------------------------------|
| ① 特別養護老人ホーム岡南の郷(ケアハウス、デイサービス等含む) | |
| 鉄筋コンクリート造陸屋根4階建 | 延べ面積 6,446.24 m ² |
| ② グループホームこうなん(2ユニット) | |
| 1 木造2階建 | 延べ面積 358.73 m ² |
| 2 木造2階建 | 延べ面積 372.43 m ² |
| ③ せったやの郷(デイサービス、グループホーム) | |
| 鉄骨造合金メッキ鋼板葺2階建 | 延べ面積 711.26 m ² |

4 設備内容

(1) 岡南の郷

施 設 名		居 室	設 備
特別養護老人ホーム		個 室 46 4人部屋 9	サービスステーション、事務室、相談室、洗濯室、宿直室、調理室、食堂、特別浴室、静養室、医務室、機能訓練室
ショートステイ		個 室 7 4人部屋 1	
デイサービスセンター			事務室、食堂、特別浴室、一般浴室、事務室、休養コーナー
グループホーム (2ユニット)	1	個 室 9	居間、食堂、台所、浴室
	2	個 室 9	居間、食堂、台所、浴室
ケアハウス		個 室 15	事務室、食堂、一般浴室、相談室、洗濯室、図書コーナー、レストコーナー

(2) せったやの郷

施 設 名	居 室	設 備
デイサービスセンター		事務室、食堂、特別浴室、一般浴室、事務室、休養コーナー
グループホーム	個 室 9	居間、食堂、台所、浴室

5 協力病院

新潟厚生連 長岡中央総合病院
医療法人誠心会 吉田病院

6 嘱託医

田中 直行
江部 佑輔

7 職員数

令和2年3月31日 現在

事業所名		事務長 施設長	副事務長 副施設長	管理者	生活相談員		看護職員 保健師			機能訓練指導員			介護職員			介護支援専門員 計画作成担当者	事務員 栄養士			その他		計
		正	正	正	正	臨時	正	臨時	パート	正	臨時	パート	正	臨時	パート	正	正	臨時	パート	臨時	パート	
法人本部		2															6			2	15	25
岡南の郷	特別養護老人ホーム岡南の郷 ショートステイ岡南	1	1 (兼1)		2 (兼2)		5			1		1	36 (兼1)	3	5	2						57
	デイサービスセンター岡南			1	1 (兼4)			1	4	1			8 (兼1)	1	3						5	25
	グループホームこうなん	1		2									10 (兼3)	1	2						1	17
	居宅介護支援事業所岡南			1												4 (兼1)						5
	ケアハウス岡南	1 (兼1)	1											1	2							5
せったやの郷	デイサービスセンターせったや			1	1 (兼2)		1		3				5 (兼2)	1 (兼1)	4						4 (兼1)	20
	グループホームせったや			1									5 (兼1)		2							8
	事務																	1				1
計		5	2	6	4	0	6	1	7	2	0	1	64	7	18	6	6	1	0	2	25	163

正職員	101
臨時職員	11
パート職員	51
計	163

8. 職員採用退職状況

令和2年3月31日 現在

[illegible]

第2 事業所別事業実績報告

(1) 岡南の郷

① 特別養護老人ホーム岡南の郷

1 利用状況

(1) 月別入退所状況

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
入所	男	1	2	1	0	0	0	1	1	3	1	1	2	13	1.08
	女	1	3	1	1	2	4	2	6	6	2	0	2	30	2.50
退所	男	0	2	0	0	1	1	1	2	1	1	1	0	10	0.83
	女	2	3	1	2	3	2	4	7	4	1	0	4	33	2.75
月末入所者数		81	81	82	81	80	80	78	77	80	82	81	81	964	80.33

(2) 介護度別入所者

介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	平均
R2.3.31	0	0	9	30	42	81	4.40
%	0.0%	0.0%	11.1%	37.0%	51.9%		
H31.3.31	0	0	11	30	40	81	4.35
H30.3.31	0	1	6	27	44	78	4.46

(3) 年齢別入所者

年齢	60 ～64	65 ～69	70 ～74	75 ～79	80 ～84	85 ～89	90 以上	計	平均年齢
R2.3.31	0	2	9	3	14	19	34	81	86.7 歳
%	0.0%	2.5%	11.1%	3.7%	17.3%	23.5%	42.0%		
H31.3.31	0	2	8	5	9	20	37	81	87.5 歳
H30.3.31	0	2	6	5	7	16	42	78	87.7 歳

2 重点施策

特養共通

(1) 年次有給休暇の取得

年次有給休暇を計画的に取得できるよう調整を行い、介護職員は平均8.6日、看護室及び介護生活相談室職員は平均10日以上の有給休暇を取得できた。次年度も計画的な取得を実施し、有給休暇を取得しやすい環境を構築していく。

(2) ICTの活用による業務改善

2丁目に先行導入している眠りスキャンを活用し、夜間帯の巡回について夜勤職員

の心身の負担軽減を図ることができた。また、心拍や呼吸数のデータを活用し、看取り期の変動の傾向から家族への連絡、職員の心の準備ができ、家族や職員に見守られる中での看取りに繋ぐこともできた。その他にも集積したデータから生活リズムの変化がないか確認する等、積極的に業務改善に活用している。現在は睡眠・覚醒サイクルに合わせた夜間の排泄ケア実施に向けて取り組み始めており、2丁目での眠りスキャン活用を共有し、環境が整い次第、特養全床への導入を行う予定である。

新たなICT導入に向けて説明会や機器の試験導入を行い、特養としてのICT活用ビジョンが見えてきている。今後は更に、自分たちの業務課題と課題解決に適したICTの選定を行い、積極的な導入に向けた検討・議論を行っていく。

(3) 新人育成シートの活用と外部研修への積極的参加

経験年数の浅い職員や新入職員に対して、育成シートを活用したプリセプター制度を導入し、育成・指導状況の可視化、育成職員と指導職員それぞれのフォローアップを行った。課題はまだ多いが、職員同士が定期的に面談を行うことで個別のコミュニケーションが増し、職員に合わせた指導を考えて実行できた。今後も取り組みを継続しつつ、実際にプリセプター制度に関わった職員を中心に課題の抽出を行い、精度を高めていきたい。

職員個々の希望・課題に合わせて積極的に外部研修への参加を勧め、知識と技術の向上を図る機会を作ってきた。また、ミーティング時に復命する機会を設けることで研修内容の理解度を高め、チームスキルの発展に繋げた。

(4) 業務の視野を広げる取り組み

年度を通じてフロア内の相互勤務・2階と3階のヘルプ勤務体制を取った。それにより入所者に合わせた業務の進め方やフロアごとの業務の違いを知ることができ、相互理解が深まった。別ユニット・別フロアの業務を経験することで業務の見方が変わり、担当ユニットの業務改善や担当外ユニットへ異なる視点から助言を行う等、広い視野で物事を見られるようになった。

他部署への交換研修は、法人全体としても体制が整わず実施には至らなかったが、ニーズは高いため、実施に向けた調整に努めていく。

(5) 接遇の振り返り

毎月のミーティングで振り返りを行い、客観的に自らの接遇について考える機会を設けた。接遇力の向上は日々の積み重ねによって意識と行動を変えていくものであるため、今後も振り返りを継続し、成功体験を通して気持ちの良い接遇環境を構築していく。

(6) 家族会解体後の取り組み

家族会を解体後、家族との関係が希薄とならないよう6月に第1回家族の集いを企画し、22家族27名から参加いただいた。施設の取り組みを説明するだけでなく座談会を行うことで、家族の想いや職員が知らない入所者の姿を知ることができ、非常に有意義なものになった。年度における入退所が多く家族の集い以降の働きかけが上手くできなかったが、今後も定期的に開催し、家族の声を聴きながらクリーン作戦や交流会等の計画を行っていきたい。

フロア別

(1) 特養2階

今年度は新たに1名が認知症介護実践者研修を受講し、認知症介護への専門性を高めることができた。また、職場内研修を通じて研修に参加していない職員も認知症介護の実践に携り、特に認知症高齢者の行動や背景、BPSDについて深く考え、ケアに活かすことができた。次年度も認知症介護の研修へ積極的に参加し、今年度は参加できなかった認知症介護実践リーダー研修への参加も勧めていく。

定期ミーティングにおいて、研修修了者から入所者の言動について考える働きかけを行い、ケア方法の検討・見直しを行った。また、認知症介護実践リーダー研修修了者が法人全体を対象とした認知症研修を担当し、学び得た知識を伝えることで自らの学びを深めることができた。今後も研修修了者を中心に、認知症介護の実践や研修の企画・実施を通して専門性の向上に努めていく。

(2) 特養3階

入所者個々の【その人らしさを大切にしたケア】の実践に向けて、居室担当者を中心に入所者とのコミュニケーションを通して潜在的に持っている楽しみや生きがいを発見・再確認できるように努めた。得られた情報は職員間で共有し、実現に向けて協議しながらサービスの工夫や提供を行った。レクリエーションの充実や施設外散歩の積極的な実施、訪問販売へお誘いする等、日常生活の中での楽しみが増えるような取り組みを行い、入所者のQOLの向上を図ることができた。

ちょこっとお出かけシステムを活用し、行事以外でも18回、延べ21名の入所者が個別の要望に添った外出をした。買い物や外食、美容室利用の他に、入所前に利用していたデイサービスへ行き馴染みの方と再会される等、笑顔で過ごされる様子を見ることができた。介護職員だけでは実施が難しいときは、他職種からの協力を得て外出の機会を確保することができた。今後も連携して体制の維持・確保に努めていく。

晩秋から春先にかけての感染症流行時期は、予防対応策として不急な外出は控えた。また、現在は新型コロナウイルスの流行により、不要不急の外出を控えざるを得ない状況である。流行が落ち着き次第積極的に取り組めるように、入所者のニーズ調査や情報収集を行って準備を進めていく。

(8) 行事

月	行事名	行事内容
4月	花見	越路運動公園や中庭で花見を行った。
5月	バスハイク	花テラスを散策し、季節感を味わった。
6月		大型スーパー等へ買い物に出かけた。
7月	七夕	七夕の飾り付けや記念撮影、おやつ作りを行い、季節感を味わった。
8月	スイカ割り	スイカ割りを行い、切り分けて食べて夏の季節感を味わった。
	納涼祭	模擬店や盆踊り等を通じて家族とふれあい、地域との交流を図った。
9月	敬老会	式典、祝宴を開き、長寿を祝った。
	ともしびまつり	アオーレ長岡で開催された『すこやかともしびまつり』へ作品を出展した。
10月	ハロウィンパーティー	ハロウィンにちなんだ仮装撮影、おやつの喫食で楽しんだ。
	お楽しみ会	脳トレや歌声広場を通して視覚や聴覚への刺激入れと入所者同士の交流を図った。
11月	文化祭	利用者の作品展示やワークショップでの作品作り、ケーキバイキング等を楽しんだ。
12月	クリスマス忘年会	忘年会特別食を食べながら、1年を振り返った。
		クリスマスツリーの飾りつけやケーキ作りで季節感を味わった。
1月	新年会	獅子舞披露、祝宴、おやつ会で新年を祝った。
2月	節分会	豆まきを行い、邪気を払って健康を願った。
3月	ひな祭り	雛壇前で記念撮影を行った。

その他、月1回程度のおやつ作りや誕生日会の開催、個別のニーズに合わせた外出等を行い、施設生活の充実を図った。

(9) 安全対策

① 事故・ヒヤリハット件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事故報告	16	14	12	11	14	9	6	12	17	7	6	14	138
ヒヤリハット	31	19	37	35	29	43	29	26	36	35	18	18	356
計	47	33	49	46	43	52	35	38	53	42	24	32	494

② 事故内容

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒・転落	5	7	6	9	5	3	5	7	10	6	5	9	77
誤嚥・異食(誤飲)	0	2	0	0	0	2	0	2	3	0	0	0	9
誤薬・内服漏れ	2	2	0	1	0	2	0	1	3	0	1	3	15
経管栄養(抜去含む)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他(痣の発見、深爪)	9	3	6	0	9	2	1	2	1	1	0	2	36
計	16	14	12	11	14	9	6	12	17	7	6	14	138

3 給食の状況

(1) 栄養量(1日当たり)

区分	エネルギー(Kcal)	タンパク質(g)	カルシウム(mg)	脂 質(g)
本施設の 基準提供栄養量	1,300	57	600	30
	1,500	66	600	35
	1,700	70	600	45

※3種類の栄養量の食事を用意し、入所者の身体状況に合わせた食事を提供している

(2) 療養食

項 目	腎臓食	糖尿食	脾臓食	潰瘍食	心臓病食
人 数	4	0	0	0	4

※複数の療養食に該当する場合あり

(3) 行事食状況

年月日	行事名	食事内容
5月5日	端午の節句	桜えびとそら豆の炊込みご飯、白身魚のマスタード焼、ジャーマンポテト、うどの酢味噌和え、ミルクプリン
7月7日	七夕	七夕ちらし、夕顔煮つけ、レモン醤油和え、西瓜
8月25日	納涼祭	いなり寿司、夏野菜のおでん、枝豆の酢の物、チョコバナナ
9月16日	敬老会	醤油赤飯、松茸すまし汁、刺身、蓮根はさみ揚げ、ボン酢ジュレのサラダ、さつま芋プリン
12月23日	忘年会	かにちらし、刺身、湯葉入りすまし汁、里芋そぼろ煮、春菊酢味噌和え、スイートポテト
12月31日	年越し	鯛めし、そば入りすまし汁、新巻鮭、天ぷら、もやしと桜エビのさっと煮
1月1日	元旦	ちらし寿司、筑前煮、元旦口取、卵豆腐
1月22日	新年会	握り寿司、蓮根すり流し汁、煮合わせ、ほうれん草のワサビ和え、ほうじ茶プリン
2月3日	節分	いなり寿司、いわしのつみれ汁、大豆とひじきのサラダ、水ようかん
3月3日	ひなまつり	ちらし寿司、はまぐり潮汁、かき揚げ、菜の花白和え、ひな祭りゼリー

② ショートステイ岡南

1 利用状況

(1) 月別利用状況

① 延べ利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
令和元年度	409	419	429	422	422	424	442	423	456	429	403	419	5,097	424.8
平成30年度	389	405	398	405	420	406	420	403	439	439	399	424	4,947	412.3
平成29年度	389	431	421	458	457	402	454	439	445	442	383	429	5,150	429.2

② 一日平均利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和元年度	13.63	13.51	14.30	13.61	13.61	14.13	14.25	14.10	14.70	13.83	13.89	13.51	13.9
平成30年度	13.00	13.10	13.30	13.10	13.50	13.50	13.50	13.40	14.20	14.20	14.30	13.70	13.6
平成29年度	13.00	13.90	14.00	14.80	14.70	13.40	14.60	14.60	14.40	14.30	13.70	13.80	14.1

③ 平均利用日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和元年度	8.01	8.55	7.52	8.27	8.44	7.57	8.33	8.13	8.94	9.12	8.76	8.72	8.4
平成30年度	8.45	8.61	7.37	7.64	8.40	7.80	8.75	7.60	9.34	7.98	8.48	7.85	8.2
平成29年度	8.28	7.84	7.80	8.48	8.62	7.73	7.96	7.84	9.08	9.02	7.82	9.33	8.3

④ 介護度別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
要支援2	1	0	0	2	1	2	1	1	1	1	1	1	12	1.00
要介護1	5	6	9	6	8	8	8	8	9	8	7	9	91	7.58
要介護2	11	11	15	12	13	13	12	12	11	11	10	10	141	11.75
要介護3	13	13	15	14	11	14	13	16	15	12	14	13	163	13.58
要介護4	14	14	12	11	11	14	14	10	11	11	10	11	143	11.91
要介護5	6	4	6	6	6	5	5	5	4	4	4	4	59	4.91
計	50	48	57	51	50	56	53	52	51	47	46	48	609	50.75
平均介護度	3.10	2.97	2.84	2.97	2.87	2.90	2.92	2.84	2.80	2.82	2.86	2.80	2.89	

(2) 地域別利用状況

	六日市	十日町	阪之上	宮内	四郎丸	富曽亀	豊田	千手	川崎	栖吉	神田	その他	市外	計
令和元年度	26	19	2	33	0	2	0	3	2	1	1	24	0	113
平成30年度	27	16	1	24	3	2	2	4	2	5	1	24	0	111
平成29年度	25	13	1	23	1	2	4	3	0	1	0	30	0	103

2 重点施策

(1) 年次有給休暇の取得

年次有給休暇を計画的に取得できるよう調整を行い、介護職員は平均8.6日、看護室及び介護生活相談室職員は平均10日以上の有給休暇を取得できた。次年度も計画的な取得を実施し、有給休暇を取得しやすい環境を構築していく。

(2) ICTの活用による業務改善

利用者の状態に合わせてセンサーマットや通過センサーを使用することで、転倒・転落の事故防止に努め、また、その機器の使用が適切であるか定期的に評価を行った。今後も利用者の状態に合わせて適切な機器を使用し、安全配慮と業務改善の両立を図る。

新たなICT導入に向けて説明会や機器の試験導入を行い、特養と一体的なICT活用ビジョンが見えてきている。今後は更に、業務課題と課題解決に適したICTの選定を行い、積極的な導入に向けた検討・議論を行っていく。

(3) 業務の視野を広げる取り組み

年度を通じてフロア内の相互勤務・2階と3階のヘルプ勤務体制を取った。それにより利用者に合わせた業務の進め方やフロアごとの業務の違いを知ることができ、相互理解が深まった。また、特養の空床を積極的に短期入所として活用し、ショートステイユニット以外の職員にも業務を理解してもらうことができた。別ユニット・別フロアの業務を経験することで業務の見方が変わり、担当ユニットの業務改善や担当外ユニットへ異なる視点から助言を行う等、広い視野で物事を見られるようになった。

他部署への交換研修は、法人全体としても体制が整わず実施には至らなかったが、ニーズは高いため、実施に向けた調整に努めていく。

(4) 接遇の振り返り

毎月のミーティングで振り返りを行い、客観的に自らの接遇について考える機会を設けた。接遇力の向上は日々の積み重ねによって意識と行動を変えていくものであるため、今後も振り返りを継続し、成功体験を通して気持ちの良い接遇環境を構築していく。

(5) 在宅生活継続のための支援

定期的なモニタリングやサービス担当者会議での情報を基に、利用者の心身の状態に合わせて在宅生活が継続できるようなケアプランの立案・サービス提供を行った。また、利用者の状態に変化があった際には、生活環境や介護力を勘案し、在宅生活を継続するための支援の提案・情報共有に努めた。利用日数が長期化する利用者も少なくはないが、あくまで在宅生活の一部にショートステイがあることを意識し、在宅生活の継続のためのサービス提供を行っていく。

(6) 定期ミーティングの開催

毎月最終水曜日をミーティング開催日とし、多職種が参加するケアカンファレンス等を行った。職種間での認識の統一を図るとともに、状態に変化のあった利用者については随時法人内外のサービス事業所へケア方法の確認をした。また、当事業所で変更したケア方法の情報提供をし、連携を図りながら共通のケアの実践に努めた。今後

も定期的なミーティングを継続し、情報の共有とケア方法の統一を行っていく。

(7) レクリエーション・余暇活動の充実

毎月2回を目安に調理レクや外出・外食行事を計画し、多くの利用者から参加していただいた。特に調理レクは好評で、調理から喫食までの過程を通して利用者同士の交流や役割分担が行われ、充実した時間を過ごしていただく機会となった。計画を早めに立てることで、介護生活相談室職員や栄養士の協力を得られ、安全に配慮した形で行事を行えた。

タブレット端末の動画視聴アプリを使用して体操の実施や歌番組の視聴を行い、余暇時間を有効活用した。しかし、利用者個々の希望に沿える段階には至っていないため、他部署や法人委員会と連携を図り、余暇活動の引き出しを増やしていきたい。

(8) 家族との情報共有・情報交換

送迎時には利用者家族とのコミュニケーションを図り、利用者の情報交換・共有を行った。また、家族からの要望等は多職種で共有し、対応の変更や利用中の様子を家族へ伝えることで信頼関係の構築に努めた。今後も家族とのコミュニケーションを大切にするとともに、直接利用者に関わっている介護職員がより送迎業務に携われるよう、業務改善や体制の見直しを行いたい。

<事故報告状況>

発生状況 \ 発生場所	フロア	居室	トイレ	浴室	計
転倒・転落	17	6	1	0	24
誤薬等	2	0	0	0	2
異食	0	0	0	0	0
傷、表皮剥離	0	0	0	1	1
その他	0	0	0	0	0
計	19	6	1	1	27

利用者のADLや認知機能の低下に伴い、転倒・転落事故が最も多く報告された。利用者の状態変化を職員間だけでなく、家族や担当介護支援専門員と共有し、必要に応じて介護ロボットを活用しながら事故防止・受傷予防に努めていく。

③ デイサービスセンター岡南

1 利用状況

(1) 月別利用状況

① 延べ利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
令和元年度	718	764	729	766	762	700	735	722	728	715	691	761	8,791	732.58
平成30年度	718	748	743	799	763	725	749	745	738	721	618	698	8,765	730.41
平成29年度	591	689	692	712	713	712	714	672	677	661	626	715	8,174	681.16

② 一日平均利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和元年度	23.90	24.60	24.30	24.70	24.60	23.30	23.70	24.10	23.50	23.10	23.80	24.50	24.00
平成30年度	23.90	24.10	24.80	25.80	24.60	24.20	24.20	24.80	23.80	23.30	22.10	22.50	24.00
平成29年度	19.70	22.20	23.10	23.00	23.00	23.70	23.00	22.40	21.80	21.30	22.40	23.10	22.39

③ 介護度別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
要支援1	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	27	2.25
要支援2	9	9	9	10	9	7	6	5	5	4	4	4	81	6.75
要介護1	13	15	14	13	14	12	13	16	15	15	15	15	170	14.16
要介護2	34	33	30	32	30	30	34	32	32	32	33	34	386	32.16
要介護3	20	21	19	19	18	16	15	14	15	17	17	17	208	17.33
要介護4	8	9	8	8	9	9	11	11	10	10	12	11	116	9.66
要介護5	4	4	3	2	2	3	3	3	3	2	4	4	37	3.08
計	91	94	86	86	84	79	84	83	82	82	87	87	1,025	85.41
平均介護度	2.44	2.43	2.40	2.37	2.38	2.44	2.43	2.38	2.38	2.36	2.46	2.44	2.41	

(2) 曜日別利用状況

	月	火	水	木	金	土	日	計	平均
令和元年度	1,290	1,312	1,291	1,306	1,230	1,215	1,147	8,791	1,255.85
平成30年度	1,255	1,279	1,320	1,314	1,254	1,251	1,092	8,765	1,252.14
平成29年度	1,215	1,115	1,207	1,237	1,176	1,234	990	8,174	1,167.71

地域別利用状況

	六日市	十日町	宮内	山通	豊田	富曽亀	千手	阪之上	神田	四郎丸	川崎	その他	市外	計
令和元年度	48	23	11	0	1	0	0	0	0	0	3	34	0	120
平成30年度	48	25	9	0	1	0	0	0	0	0	3	45	0	131
平成29年度	40	37	11	2	3	0	2	0	1	1	2	8	0	107

2 重点施策

(1) 安定した事業経営への取り組み

新たに機能訓練専用のパンフレットを作成し、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターへ毎月実績報告・営業活動を行い、新規利用者の確保に努めた。結果、平均利用者数24.0名、実利用者数平均85.4名、月延べ利用者数732.6名、年間新規利用者数32名となり、実利用者数以外は目標を達成できた。個別機能訓練加算（Ⅰ）・（Ⅱ）算定者は延べ3,568名と昨年度よりも939名増加した。また、ADL維持等加算は、毎月BIを測定していつでも加算算定ができるよう準備を進めてきたが、新規利用数の増加に伴い評価対象者の割合に達せず、加算要件を満たせなかった。今後も、利用者が可能な限り住み慣れた在宅での生活が継続できるよう機能訓練の取り組みに力を入れるとともに、安定した事業経営に向けて加算の算定と営業活動に努める。

(2) 働きやすい職場作り

管理者、リーダーが日頃から職員との意見交換の機会を持ち、業務上の問題や意見を聞き取り改善に努めた。年次有給休暇は、年度初めより計画的に取得することで、計画以上に取得できた職員もいた。来年度も5日以上取得できるよう計画的に実施していく。また、時間外労働は職種により差が大きかった。今後は、職種ごとの業務課題を精査し検討・改善していく必要がある。新たにICT機器の導入も視野に、更なる職員の負担軽減と業務の効率化を目指す。

(3) 健康管理

施設到着時のバイタル測定や入浴時のボディチェックにて、健康状態の把握や異常の早期発見に努め、適切に状態観察を行うことができた。感染症の流行期には利用者・家族に予防を呼びかけ、他部署や感染委員会と連携を図り、施設内感染の予防にも努めた。また、新型コロナウイルス感染防止のため、送迎前の利用者の検温の徹底や事業所内の使用物の消毒等を毎日行った。今後も情報収集や他部署との連携を図り、施設内の感染予防に努める。

(4) 人材の育成

人材の育成のため、職員個々の能力を把握し、資格や経験年数に応じた研修参加や他施設への視察等を行った。また、研修等に参加した職員がミーティングで内容を復命することで、それ以外の職員も研修内容を理解し、職員のスキルアップに繋げた。

プリセプター制度を導入し、新人職員の指導と指導職員への体制作りを行った。新人職員の育成状況の把握や指導職員の指導方法、フォローアップについての課題点が見えてきたため、今年度の反省点を踏まえて来年度も継続して取り組んでいく。

(5) 安全対策の徹底

事故発生時に事故ミーティングを設け、各職種からの視点で原因を追究し、的確な対応を行った。また、毎月のミーティングで事故対応策の評価、再検討を行うとともに、安全対策委員会を中心に職員全員がヒヤリハットの重要性を再確認してきたことで、昨年度よりもヒヤリハット報告書が111件増加した。

(6) 第三者評価の受審・結果について

昨年度、事業所として2回目となる新潟県福祉サービス第三者評価を受審した。新潟県が認証した公正・中立な第三者機関より、利用者または家族への事業所に対する満足度調査や全職員に対する日々の業務等に関するアンケートが実施された。また、2日間の訪問調査にて事業所のサービスの質や業務改善等に向けた取組等を専門的かつ客観的に評価していただいた。総評結果について「特に評価が高い点」は継続して努力するとともに、「改善を求められる点」や「課題点」については、質の高いサービス提供に向けて努めたい。

2 事故報告

発生状況 \ 発生場所	フロア	浴室	トイレ	玄関	その他	計
転倒・転落	7	0	2	0	1	10
誤嚥・窒息・異食	0	0	0	0	0	0
薬関係	2	0	0	0	0	2
傷・表皮剥離・怪我	4	2	0	0	0	6
その他	0	1	0	0	1	2
計	13	3	2	0	2	20

3 ヒヤリハット

発生状況 \ 発生場所	フロア	浴室	トイレ	玄関	その他	計
移動・起居動作・移乗	51	37	5	3	10	106
杖・歩行器の不使用	29	2	5	0	0	36
バイタル測定	1	1	0	0	1	3
食事・水分・服薬	21	0	0	0	0	21
送迎	0	0	0	0	16	16
その他	26	13	3	0	14	56
計	128	53	13	3	41	238

4 行事

月	日	行事名	内容
4月	9・11	お花見	長岡市立劇場・さいわいプラザで桜を鑑賞した。
5月	27・31	バスハイク	花テラスに出かけ季節の花々を鑑賞した。
6月	20・27	外食ツアー	宮内の回転寿司店で食事をした。
7月	17・31	外食ツアー	宮内の回転寿司店で食事をした。
8月	12・15・17	そうめん流し	デイサービスフロアで流しそうめんを提供した。
	30	夏祭り	屋台として、かき氷や綿飴、魚釣り、千本引きなどを行った。
9月	16	敬老会	昼食に祝い膳、饅頭を提供。当日利用者全員で記念撮影。
	20・27	バスハイク	宮内の回転寿司店で食事をした。
10月	17・22・23	お好み焼き作り	利用者希望にてお好み焼き作りを行った。
11月	13・18	バスハイク	村松～山古志～浦柄を紅葉を見て回った。
12月	22～28	忘年会	ゆず湯、寄せ鍋、すきやきを提供、ビンゴ大会で楽しんだ。
1月	6～13	新年会	新年の祝い膳を提供、かるたやゲームを楽しんだ。
2月	25・28	温泉入浴	地域交流スペースの温泉へ入浴し楽しんだ。
3月	16・18	温泉入浴	地域交流スペースの温泉へ入浴し楽しんだ。

④ グループホームこうなん

1 利用状況

(1) 月別入退居状況

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
入居	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	0.16
退居	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	女	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	0.16
月末入居者数		18	18	18	18	18	18	18	17	17	18	18	18	214	17.83
短期利用		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
通所利用		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0.16

※ 通所利用サービス(共用型デイサービス) 利用回数合計 4回

(2) 介護度別入居者

介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	平均
R2.3.31	6	4	4	4	0	18	2.33
%	33.3%	22.2%	22.2%	22.2%	0.0%		
H31.3.31	6	6	6	0	0	18	2.00
H30.3.31	5	4	8	1	0	18	2.27

(3) 年齢別入居者

	60 ～64	65 ～69	70 ～74	75 ～79	80 ～84	85 ～89	90 以上	計	平均年齢
R2.3.31	0	0	0	2	4	5	7	18	87.5 歳
%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	22.2%	27.8%	38.9%		
H31.3.31	0	0	0	3	4	4	7	18	86.4 歳
H30.3.31	0	0	0	3	2	8	5	18	86.3 歳

2 重点施策

(1) 職員の資質向上

外部研修や法人内職員研修に参加し、実践的な知識と技術を身につけることができた。また、2名の職員が介護福祉士の国家資格を取得することができた。

(2) 利用者へのサービスの充実

センター方式のアセスメントシートを活用して、利用者個々の思いに添った支援を盛り込んだケアプランを作成し、生活の中に楽しみや達成感を感じられるような支援を提供できた。また、軽作業や茶話会を通じて利用者間の交流が図れるよう支援し、安心して生活できる環境を提供できた。

(3) 役割の創出と地域貢献

地域の一員として貢献できるよう、岡南保育園の園児や岡南小学校の児童を招いて交流を図り、生活に活力をもたらす貴重な機会となった。また、運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、地域住民代表等から意見や要望を伺うことができた。

(4) 利用者家族との連携

利用者家族にも参加していただいた母の日行事や敬老会行事において、家族同士で交流が図れる機会を提供できた。また、家族の思いや意向を直接聞き取ることで、ケアプランの作成に役立てた。

(5) 働きやすい職場作り

ミーティング等で職員各々の意見を反映し、業務の改善や職員の負担軽減、環境整備等を行い、働きやすい職場体制作りに努めた。また、業務の効率化や勤務調整を行い、円滑に年次有給休暇を取得することができた。

(6) 安定した収入確保

空室期間の短縮を図るため、グループホームせったやと情報を共有するとともに、待機者の現況把握と確認を行い、入居率98.8%を確保できた。また、2月から共用型デイサービスを稼働することができた。

(7) 非常災害時における対応と利用者の安全確保

火災や土砂災害、水害を想定した実働訓練を実施し、避難誘導の手順を確認した。また、地域の自主防災会に参加していただき、地域住民との連携の強化を図った。

3 事故報告・ヒヤリハット

(1) 発生件数

区分 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事故報告	1	4	1	0	1	2	6	4	0	3	0	4	26
ヒヤリハット	4	12	3	3	5	11	6	7	4	6	6	10	77
計	5	16	4	3	6	13	12	11	4	9	6	14	103

ヒヤリ・ハットは、昨年度と同様に皮膚トラブルにや内服薬、転倒リスクに関する事例が多く報告された。今後も職員ミーティング等でヒヤリハットの事例を共有し、事故の発生を未然に防ぐ取り組みに役立てる。

(2) 内容別事故報告件数

区分 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
転倒・転落・尻もち	0	2	0	0	1	1	5	4	0	2	0	4	19
受傷(切り傷・裂傷・ 剥離・皮下出)	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	3
服薬	0	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4
行方不明(無断外出)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	4	1	0	1	2	6	4	0	3	0	4	26

内服薬の一包化により、服薬に関する事故報告件数が減少しているが、転倒事故は昨年度と同程度の事故報告件数となった。転倒事故は重大事故に繋がる恐れがあることを認識し、危機感を持ちながら再発防止に努める。

⑤ 居宅介護支援事業所岡南

1 居宅サービス計画数(国保連請求分)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
令和元年度	137	145	142	143	148	139	140	141	135	137	141	138	1,686	140.5
(新規契約件数)	9	6	8	2	1	3	4	3	4	3	5	2	50	4.2
平成30年度	140	139	144	139	137	136	130	143	135	129	135	130	1,637	136.4
平成29年度	135	136	137	136	140	143	143	145	141	139	147	147	1,689	140.8

2 介護予防支援・くらし元気委託料請求件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
令和元年度	24	25	22	22	22	21	25	27	28	30	29	33	308	25.67
平成30年度	19	18	18	18	18	19	18	19	21	20	20	22	230	19.17
平成29年度	21	20	19	21	21	18	18	19	17	14	14	19	221	18.42

3 長岡市・小千谷市認定調査件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
令和元年度	9	1	8	6	11	13	9	11	9	12	14	10	113	9.41
平成30年度	9	12	9	8	8	11	9	11	11	9	7	12	116	9.66
平成29年度	8	11	8	8	14	9	11	8	8	10	10	9	114	9.50

4 重点施策

(1) 安定的な事業経営への取り組み

居宅サービス計画数(国保連請求分)が1,686件で前年度実績より49件増加した。また、介護予防支援は78件増加した。病院や地域包括支援センターへの営業に加え、新たに3つの地域包括支援センターと委託契約を結び、新規利用者の獲得に繋げることができた。また、一部地域にチラシをポスティングすることで気軽に相談できるきっかけ作りに努めた。今後も質の高いケアマネジメントを実施するために特定事業所加算Ⅱを堅持し、関係機関と良好な関係を維持しながら積極的に新規受け入れを行っていく。

(2) 提供する居宅介護支援サービスの質の向上と人材育成への取り組み

利用者や家族の要望に応え、職員が自らの業務を振り返り、課題を見つけて解決ができるように、外部研修や経験年数に応じた専門研修への参加を実施した。また、他法人が運営する居宅介護支援事業所や関係機関との情報交換、事例検討会を実施し、サービスの質の向上を図ることができた。

職員自ら自己の課題を見つけ評価し、引き続き成長していけるように年間目標を立て、各種研修や他法人が運営する居宅介護支援事業所との事例検討会を実施し、同時に主任介護支援専門員の有資格者増員に向けた努力を行っていく。

(3) 地域社会との連携

利用者や家族に対して丁寧かつ迅速な対応に努め、信頼関係を深めることができた。単身世帯や軽度の援助を必要とする高齢者が増加する中で、社会と繋がりを持ち地元での暮らしを全うできる共生社会の実現に向けて、地域社会との連携を深める。引き続き介護予防教室「お元気塾」と連携し、地域に潜在している福祉ニーズや社会資源の把握、情報収集を行っていく。

(4) 明るく働きやすい職場作り

事業所ミーティング、ケース検討会を通して個々が抱える担当ケースで困難な事例について意見交換、情報共有を行った。そのため、職員が一人で問題を抱え込まず担当職員不在の場合でも支障なく対応できた。業務改善に向けて自分の意見を言える風通しの良い雰囲気を作るとともに健康管理に気を配り、やりがいを持って業務にあたることができる職場環境を構築していく。

⑥ ケアハウス岡南

1 利用状況

(1) 月別入退居状況

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
入居	男	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0.16
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
退居	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	女	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0.16
月末入居者数		15	14	15	15	14	15	15	15	15	15	15	15	178	14.83

退居理由は、2名ともADLが低下し、ケアハウスでの生活ができなくなり施設入所となっている。新規入居者も要介護認定を受けている。

(2) 介護度別入居者

介護度 基準日	自立	要支援		要介護				計
		1	2	1	2	3	4	
R2.3.31	2	0	2	2	4	5	0	15
%	13.3%	0.0%	13.3%	13.3%	26.7%	33.3%	0.0%	100%
H31.3.31	1	1	2	4	5	2	0	15
H30.3.31	2	1	1	5	4	2	0	15

要介護2、要介護3の入居者が全体の6割を占めている。

(3) 年齢別入居者

	60 ～64	65 ～69	70 ～74	75 ～79	80 ～84	85 ～89	90 以上	計	平均年齢
R2.3.31	0	0	3	0	2	3	7	15	86.1 歳
%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	13.3%	20.0%	46.7%		
H31.3.31	0	0	2	0	3	4	6	15	85.9 歳
H30.3.31	0	0	1	2	3	4	5	15	85.7 歳

平均年齢は80.2歳上がり、80歳以上の入居者が全体の8割を占めている。

2 重点施策

(1) 入居者の生活の質(QOL)の向上

① 相談・助言

入居者一人ひとりの生活状況、身体状況の把握に努め、生活面や健康面の不安等に対して相談に応じ、助言をした。必要に応じて家族・介護支援専門員とともに対応をした。また、健康教室を開催し、健康増進・認知症予防への取り組みを行った。

② 環境・生活

入居者の高齢化に伴い身体状態が低下し、介護と医療が必要な方が増加している。可能な限り自立した生活が送れるよう本人や家族、介護支援専門員とともに生活面の配慮、環境整備を行った。

③ 入浴

入浴は毎日提供し、事故防止のため30分毎の巡回を実施した。また、感染症予防と清潔保持のため、塩素濃度の測定や浴室、脱衣室の清掃を徹底した。

④ 保健衛生・緊急・災害時対応

定期的な体重・血圧測定や健康相談を行い、入居者の状態把握に努めた。主治医による年1回の特定健診受診を勧め、疾病の早期発見、早期治療に努めた。

緊急時は家族等と連絡を取り、主治医・医療機関の指示に従って対応した。連絡方法を明確にしておくことで迅速な対応が行えた。また、災害に備え、入居者が速やかに避難できるように日中想定避難訓練を行い、防災意識を高めた。

⑤ 介護予防対策

入居者にラジオ体操への参加を勧め、加齢に伴う身体機能低下の予防に努めた。また、健康教室を開催し健康増進のための体操を行った。

興味の持てる行事や余暇・趣味活動への参加を促し、入居者間の親睦を図り、楽しみのある生活が送れるよう努めた。

⑥ 在宅福祉サービスの提供と情報交換

入居者の身体・精神状態に変化があった際は、入居者、家族等の意向を確認した上で、在宅福祉サービスの提供について主治医や担当介護支援専門員と情報交換を行い、入居者が安心して生活が送れるよう努めた。

(2) 入居者の確保

身体機能の低下等によりケアハウスでの生活が困難となった入居者に対し、介護支援専門員や家族等と連携して、次の受け入れ先を探すよう努めた。また、空室期間短縮の取り組みとして、新規入居者確保のため、包括支援センターと居宅介護支援事業所を中心に営業活動を行った。問い合わせには丁寧に説明し、希望者には見学対応を行った。営業活動の継続が入居者確保に繋がるため、今後も力を入れていく。

(3) 職員の資質の向上

入居者の状況把握や対応の統一を図るため、連絡ノートの活用や回覧文書で情報の共有を徹底した。また、職員間で話し合いの場を設け、入居者の少しの変化でも気づけるよう医療・介護等の対応について意見交換、情報伝達を行った。

(4) 働きやすい職場作り

- ① 年次有給休暇の計画的な取得により、職員の生活の充実や気分転換に繋げることができた。
- ② 日々の業務の中で疑問に思ったことを職員間で話し合い、業務内容を見直す機会を作り、働きやすい環境作りに努めた。
- ③ 職員一人ひとりが規則正しい生活を送り、健康管理に留意するよう努めた。

3 事故報告

発生場所 事故内容	浴室	居室	ホール	屋外	その他	合計
転倒	0	0	1	1	0	2
転落	0	0	0	0	0	0
誤嚥	0	0	0	0	0	0
誤薬	0	0	1	0	0	1
その他	0	0	2	0	0	2
計	0	0	4	1	0	5

前年度との比較	事故の件数	事故者の人数
平成30年度	4 件	2 人

4 年間行事状況

月	日	行事名	行事内容
4	18	お花見	ケアハウス裏中庭で桜を鑑賞し、茶話会を行った。
5	27	バスハイク	やまこし復興交流館おらたるに行き、施設見学・景観を楽しんだ。
6	5	バスハイク	花テラスに行き、散歩・景観を楽しんだ。
6	平日	作品作り	すこやかとしびまつり・文化祭に出展する作品を制作した。
7	4	七夕	短冊に願い事を書き、笹飾りを作った。また、ゼリーを作り、茶話会を行った。
8	25	納涼祭	岡南の郷納涼祭にて模擬店、盆踊りを楽しんだ。
9	16	敬老会	行事食を提供し、職員の余興等で敬老の祝いを行った。
10	17	おやつ作り	さつまいもで蒸しパンを作り、茶話会を行った。
11	3	文化祭	作品鑑賞、作品作り、ケーキバイキングのイベントに参加し楽しんだ。
12	16	忘年会	さつまいもきんとん作りやビンゴゲームの余興等を楽しみながら一年を振り返った。
1	16	新年会	祝い膳を提供し、職員の余興等を楽しみながら、新年を祝った。
2	4	節分祭	鬼踊りの披露や豆まきをして、今年一年の無病息災を祈った。
3	5	ひな祭り	プチカップケーキを作り、茶話会を行った。

5 趣味活動・余暇活動

回数	曜日等	内容
週 1 回	木曜	買い物 原信宮内店で買い物した。
月 1 回	不定期・月2回	歌声広場 入居者同士でのカラオケを行った。
	毎月1日	懇親会 入居者全員が参加し、入居者の意見・要望、職員・入居者間の連絡、ケアハウスの生活について話し合いを行った。
	第3月曜	健康教室 認知症予防のための体操や健康に留意した教室を開催した。
	不定期	おやつ作り 季節を感じられるおやつを作り、茶話会を行った。
	月 末	身体測定 体重、血圧測定を行った。

歌声広場では、入居者同士でカラオケを通じ交流を図ったり認知症予防の歌を歌ったりした。

健康教室では入居者に対し健康増進・認知症予防の講座や体操等を行った。

従来行っていたコーヒー喫茶は、水分やカロリー制限等が必要な入居者が多くなったため中止し、参加者が多いおやつ作り等に切り替えた。制限のある方には量を減らして提供する等工夫をした。

(2) せったやの郷

① デイサービスセンターせったや

1 利用状況

(1) 月別利用状況

① 延べ利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
令和元年度	612	598	582	637	617	590	577	554	541	544	545	568	6,965	580.41
平成30年度	661	670	629	690	681	636	663	611	602	570	566	625	7,604	633.66
平成29年度	646	673	641	687	680	649	650	640	664	602	567	649	7,748	645.66

② 一日平均利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和元年度	20.40	19.29	19.40	20.54	19.90	19.66	18.61	18.46	17.45	17.54	19.46	18.32	19.08
平成30年度	22.03	21.61	20.96	22.25	21.96	21.20	21.38	20.36	19.41	18.38	20.21	20.16	20.82
平成29年度	21.53	21.70	21.36	22.16	21.93	21.63	20.96	21.33	21.41	19.41	20.25	21.63	21.27

③ 介護度別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
要支援1	3	3	3	3	3	2	3	2	2	2	1	1	28	2.33
要支援2	4	3	2	5	5	5	5	6	6	4	4	3	52	4.33
要介護1	17	14	16	16	16	16	16	15	13	11	12	13	175	14.58
要介護2	22	21	21	20	19	18	18	18	16	16	16	16	221	18.41
要介護3	16	17	17	17	17	18	16	16	19	18	21	20	212	17.66
要介護4	12	12	12	11	10	10	9	8	8	10	8	9	119	9.91
要介護5	3	4	3	4	3	3	3	3	1	1	1	2	31	2.58
計	77	74	74	76	73	72	70	68	65	62	63	64	838	69.83
平均介護度	2.45	2.57	2.49	2.51	2.46	2.47	2.43	2.43	2.43	2.53	2.48	2.51	2.48	

(2) 曜日別利用状況

	月	火	水	木	金	土	日	計	平均
令和元年度	1,080	976	1,026	1,077	1,000	873	933	6,965	995.00
平成30年度	1,111	1,089	1,090	1,095	1,077	1,075	1,067	7,604	1,086.28
平成29年度	1,066	1,133	1,128	1,110	1,098	1,124	1,089	7,748	1,106.85

(3) 地域別利用状況

	六日市	十日町	宮内	山通	豊田	千手	阪之上	神田	四郎丸	川崎	下々条	その他	市外	計
令和元年度	7	16	49	3	9	7	0	4	4	0	0	1	0	100
平成30年度	12	16	68	1	11	6	0	0	2	0	0	5	0	121
平成29年度	12	21	53	1	7	8	0	2	0	0	0	1	0	105

2 重点施策

(1) 新規エリアの開拓と利用者の確保

目標数値として平均利用者数22名/日と設定し、月間実利用者数80名、月延べ利用者数670名、年間新規利用者数30名を目安に取り組んだ。実績は平均利用者数19.08名/日、月延べ利用者数580.41名/月、年間新規利用者数24名であり、目標達成には至らなかった。

居宅介護支援事業所や地域包括支援センターを定期的に訪問し、空き状況や曜日別の利用者の特徴（男性利用者が多いこと等）、活動プログラム等を紹介していただくように依頼し、営業活動に注力した。また、利用者の状態を正確に把握し、家族・担当介護支援専門員に利用状況を報告することで信頼関係を構築できた。感染症措置に伴い営業活動ができない期間も可能な範囲で情報発信に努めた。

事業を取り巻く環境はより一層厳しくなることが予想されるので、事業所の情報発信や営業活動を継続し、利用者確保と新規エリアの開拓に力を入れていく。

(2) 余暇活動の充実と社会性、身体機能の維持

余暇活動の「脳トレ」、「創作活動」について利用者の希望や状況に合わせた活動を個別に提供することができた。また、活動を通して交流を図り、社会性の維持に繋げることができた。

「体操」については機能訓練指導員が考案したプログラムを計画的に行い、利用者も定期的に取り組まれていた。午前・午後2回に分けての全体の体操と口腔体操を含め、利用者の体調や状態に合わせた内容を提案することで、身体機能の維持を目的としたサービスを提供した。

(3) 安全対策の徹底

事故報告は14件で前年比7件の減少、ヒヤリハットは75件で前年比15件の増加となった。職員一人ひとりがサービス提供時に常に危険意識を持ち、危険を感じたことについて早急に対策を講じ未然の防止に努めた。事故発生時は原則当日にミーティングを行ない具体的な再発防止策を講じ、定例の職員ミーティングで再度の見直しをした。また、看護職員を中心とした緊急対応研修を実施した。

(4) 利用者の健康管理

看護職員を中心として施設到着時のバイタルチェック、入浴時の全身状態の確認を行い、利用者の状態把握に努めた。看護・介護の全職員が情報を共有したことで、状態変化の早期発見に繋がった。今後も感染症の流行時期は利用者・家族からの情報収集や感染対策委員会と連携を図り、事業所内の感染蔓延の予防に努める。

(5) 職員が働きやすい職場作り

外部研修、法人内研修に参加し資質向上に努めた。職員一人ひとりが利用者に対して丁寧な言葉のかけ方を意識し、職員ミーティングで振り返りの機会を設けた。傾聴、受容、共感を基本とした意見交換を行い、風通しの良い職場作りに努めた。

タブレット端末導入により記録等の入力・管理が効率化され、情報管理に伴う時間の短縮に繋がった。

3 事故報告

発生場所 事故内容	フロア	浴室	トイレ	玄関	その他	計
転倒・転落	3	0	0	1	1	5
誤薬等	1	0	0	0	0	1
異食	1	0	0	0	0	1
傷、表皮剥離	0	1	0	0	0	1
その他	6	0	0	0	0	6
計	11	1	0	1	1	14

4 ヒヤリハット

発生場所 発生状況	フロア	浴室	トイレ	玄関	その他	計
入浴・検温	2	4	0	0	0	6
移動	14	2	4	2	1	23
食事・水分・服薬	19	0	0	0	0	19
送迎	0	0	0	0	7	7
その他	13	5	0	0	2	20
計	48	11	4	2	10	75

5 行事

月	行事名	行事内容
4月	お花見	越路河川公園へ出かけ桜を観賞した。
5月	花壇作り	庭のスペースに畑・花壇作った。
6月	外食ツアー	宮内の回転寿司に行き、昼食を召し上がった。
7月	温泉ツアー	岡南の郷へ行き温泉入浴。
8月	外出ツアー	体調面を考慮し外出レク休止(猛暑のため)。
9月	敬老会・ふれあい祭り・ともしび祭り	地域の方が来園。ゲームコーナーや模擬店で軽食の販売。和太鼓・マジックショーの催し。
10月	焼き芋作り	焼く様子を楽しまれ、焼き芋を召し上がった。
11月	文化祭・バスハイク	岡南の郷文化祭に参加。催し物を観覧し楽しめる。
12月	大忘年会	忘年会祝い膳(鍋料理)を提供。午後はおやつ作りを行う。
1月	新年会	新年会祝い膳(握り寿司・生ちらし寿司・蟹ちらし寿司)を提供。午後からは福笑い・ゲームを行う。
2月	お楽しみ食事会	餃子・塩昆布ナムル・ちゃんぽん・フルーツポンチ等を作った。
3月	おやつ作り	プリン作りを行った。

② グループホームせったや

1 利用状況

(1) 月別入退居状況

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
入居	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0.16
	女	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	4	0.33
退居	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.08
	女	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	4	0.33
月末入居者数		9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	8	9	107	8.91
短期利用		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
通所利用		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.08

※通所利用サービス(共用型デイサービス) 利用回数合計 2回

(2) 介護度別入居者

介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	平均
R2.3.31	2	5	2	0	0	9	2.00
%	22.2%	55.6%	22.2%	0.0%	0.0%		
H31.3.31	1	2	2	1	2	8	3.12
H30.3.31	1	1	4	1	2	9	3.22

(3) 年齢別入居者

	60 ～64	65 ～69	70 ～74	75 ～79	80 ～84	85 ～89	90 以上	計	平均年齢
R2.3.31	0	0	1	3	3	2	0	9	80.7 歳
%	0.0%	0.0%	11.1%	33.3%	33.3%	22.2%	0.0%		
H31.3.31	0	0	0	2	2	3	1	8	86.6 歳
H30.3.31	0	0	0	2	4	2	1	9	87.1 歳

2 重点施策

(1) 地域との結びつきの強化

せったやの郷ふれあい祭りは多くの地域住民の来場があり、交流することができた。また、地域の小学校等の訪問ボランティアもあり、利用者との親睦を深めることができた。

(2) 職員の資質向上

事業所独自の定期的な研修は日程の都合等により実施することが困難であったが、医療面で看護師長より適宜説明を受け、理解を深めることができた。また、開催している定期研修会の他、外部研修は職員のレベルを考慮し、個々に合った定期研修に参加できるようにした。

(3) 外部の視点に基づいたサービス提供の実施

法人で行っている満足度調査の結果や家族の意向を伺うことで、利用者の希望に沿

ったサービスの改善に取り組んだ。また、外部評価結果を振り返ることで事業所としてできることを再考し、より細やかなサービス提供の実施に努めた。

(4) 空室期間短縮の取り組み

待機者の把握や居宅介護支援事業所等と情報交換を行い、新規の利用希望者確保を進めた。また、退居があっても早期の入居ができるように訪問調査を速やかに行い、空室期間の短縮に取り組んだ。

(5) 家族との交流の促進、結びつきの強化

家族との交流・親睦を目的として、父母の会及び敬老会の昼食会に家族を招待した。敬老会は多くの参加があり、好評であった。家族参加の行事は、職員との交流や家族間の意見交換の場となっており、利用者の個別支援においても家族の協力を得る機会が増えた。今後も引き続き、家族行事や日々の面会、運営推進会議を通じて情報の共有を図りながら家族、職員の親交を深めていく。

(6) 働きやすい職場づくり

職員ミーティングや個別のヒアリング等を通じて、職員の負担軽減に関する業務改善や環境整備に取り組んだ。また職員の能力に合わせた業務分担を行い、お互いがカバーし合うことで、特定の職員が無理をして仕事を抱えることのないように努めた。

(7) 防災及び緊急時対応の強化

日中及び夜間を想定した避難訓練を実施し、利用者・職員の防災意識を高めることに努めた。また、水害を想定した避難訓練を実施することで自然災害に対しても柔軟且つ実践的な防災体制に取り組む重要性が再認識できた。

3 事故・ヒヤリハット報告

(1) 発生件数

区分\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事故報告	2	4	3	6	2	1	1	0	3	2	0	1	25
ヒヤリハット	5	1	4	4	3	2	3	6	2	3	0	4	37
計	7	5	7	10	5	3	4	6	5	5	0	5	62

(2) 事故報告発生内容

区分\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
転倒	1	0	1	1	0	0	1	0	2	1	0	1	8
行方不明(無断外出含む)	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
服薬	1	3	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	8
異食	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4
その他	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	3
計	2	4	3	6	2	1	1	0	3	2	0	1	25

ヒヤリハット報告は、転倒と服薬ミス等の危険性に繋がるケースや原因不明の外傷による報告事例が多かった。また、事故報告も転倒と服薬ミスが多く発生していた。

転倒は主に環境整備による対応策、服薬ミスについては内服時の再確認及び薬の一包化等を行い、それぞれ改善が見られた。

(3) 看護室

1 重点施策

(1) 看護業務の改善と手順書の作成

各部署で生じた問題は一緒に検討し、業務改善に繋げる方向へ見直しを図るようにした。看護手順の作成を推奨していたが新しく作成するまでには至らなかった。今後も利用者に必要な医療行為や看護処置を施設で出来る範囲で協議し、手順書の作成に繋げていく。また、災害時に備えた看護師の役割分担の構築ができなかった。

(2) 看護職員の教育・指導

法人内外の研修に参加し個々の資質向上に繋げた。今後も継続する。また、伝達講習の定着を図る。

(3) 利用者の健康管理

感染については、感染対策委員会を中心に研修や感染対策等を行った。各部署の特殊性を踏まえた適切な対策が講じられるように努めた。

嘱託医、感染対策委員会、衛生委員会、管理栄養士、各部署の看護職員及び管理者等との連携を強化し、対応に当たるシステムの構築を目指した。

(4) 医療連携

① 特別養護老人ホーム

長岡在宅(施設)医療連携システムで、入所者の情報管理を引き続き行った。グループホームやケアハウスも加入者のチェックをして、急変時の連携に役立てるようにした。

② グループホーム

学習会としての時間確保は難しく、ミーティングを利用してワンポイント伝達をした。また、ケアマネージャーや生活相談員と連携して、ケースに沿った助言及び病院や医院、家族と必要時に連絡調整を行った。

③ ケアハウス

自己の服薬管理ができない入居者が急増しているため、職員預かりでの投薬方法や管理方法を検討した。また、緊急時に備えて入居者の緊急医療情報をまとめた。

(5) 職員の健康管理

健康診断の事後措置として、要精密検査以上の職員に受診と結果報告を促した。未受診者には面接で状況を確認し、受診を推奨した。健康便りを3部発行し、職員からの健康相談は随時行った。

ストレスチェックについて、個別と集団で分析を行い、職員からの個別の相談にはできる範囲で応じた。また、メンタルヘルス研修2種、腰痛防止研修1種を実施した。

今後も管理栄養士や作業療法士等と連携し、健康相談とともに継続していきたい。

第3 苦情受付状況

1 事業所別苦情受付件数

事業所名		件数
本部		0
岡南の郷	特別養護老人ホーム岡南の郷	0
	ショートステイ岡南	1
	デイサービスセンター岡南	0
	グループホームこうなん	0
	居宅介護支援事業所岡南	0
	ケアハウス岡南	0
	小計	1
せったやの郷	デイサービスセンターせったや	2
	グループホームせったや	0
	小計	2
合計		3

2 苦情申出人の要望（複数回答有）

要望	件数
改めてほしい	0
回答がほしい	2
話を聞いてほしい	2
調査してほしい	0
その他（注意してほしい）	0
計	4

3 苦情申出人より第三者委員への報告

報告	件数
必要あり	0
必要なし	3
計	3

4 苦情内容と発生原因

苦情内容	発生原因
利用者の私物について	職員の確認不足
利用者への対応について	職員の配慮不足
食事の内容について	職員の確認不足

5 今後に向けて

苦情の発生原因は、職員の配慮不足、確認不足等が挙げられる。苦情の申出があったときは、事実関係を確認した上で説明・謝罪等を行い、利用者、家族、関係者に迅速且つ適切に対応した。同様の事を繰り返さない為に、当該部署に限らず、法人内においても注意喚起をおこなった。

苦情再発防止の為、管理監督者が職員への指導・教育を再度徹底するとともに、研修等に積極的に参加し、接遇マナーや技術等を習得し、職員の資質向上に努める。また、各事業所で実施しているミーティング等で職員間の情報共有を徹底し、苦情ゼロを目指す。

第4 研修の状況

1 階層別研修

期間(自)	期間(至)	研修の名称	実施団体	開催地	人数	事業所
4月11日		新入職員研修会	長岡しんきんビジネスクラブ	長岡信用金庫本店	2	DS岡南、GHせったや
4月19日		平成31年度新潟県介護事業所のネットワークづくりと外国人材受入制度セミナー	新潟県高齢福祉保健課	新潟県自治会館	1	法人本部
5月24日		令和元年度新潟県認知症高齢者グループホーム協議会総会及び研修会	新潟県認知症高齢者グループホーム協議会	ハイズ長岡	1	GHこうなん
5月29日		令和元年度定時総会及び第1回管理者研修会	一般社団法人新潟県老人福祉施設協議会	新潟ユニゾンプラザ	1	法人本部
6月28日		第3ブロック部会令和元年度研修会	一般社団法人新潟県老人福祉施設協議会	燕三条地場産業振興センター	2	特養
7月4日		企画研修第2回研修会	一般社団法人新潟県老人福祉施設協議会	新潟ユニゾンプラザ	1	特養
7月5日		経営者・管理者研修会	公益社団法人日本認知症グループホーム協会	燕三条地場産業振興センター	1	GHこうなん、DSせったや
7月19日		介護経営セミナー	第四北越フィナンシャルグループ	朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター	1	法人本部
7月23日	7月25日	社会福祉法人経営者研修会「経営管理コース」	社会福祉法人全国社会福祉協議会中央福祉学院	中央福祉学院	1	法人本部
7月24日	7月25日	基礎講座	全国社会福祉法人経営青年会	TIME24ビル	2	法人本部、特養
8月29日		第3ブロック部会施設見学研修会	一般社団法人新潟県老人福祉施設協議会	花の里かつぼ	1	GHせったや
9月11日		第24回新潟県老人福祉施設研究大会	一般社団法人新潟県老人福祉施設協議会	糸魚川市民会館	1	特養

期間(自)	期間(至)	研修の名称	実施団体	開催地	人数	事業所
9月25日	9月26日	第46回国際医療福祉機器展	全国社会福祉協議会	東京ビッグサイト	7	特養、DS岡南、GHこうなん、居宅、DSせったや
9月30日		企画研修第4回研修会	一般社団法人新潟県老人福祉施設協議会	燕三条地場産センター	1	特養
10月2日		地域別多職種交流会	長岡市地域包括支援センターみやうち・やまこし	ゲストハウス英国屋	2	特養、せったやの郷
10月10日	10月11日	令和元年度「21世紀委員会合同研修会」	北関東3県21世紀委員会	戦災復興記念館	1	特養
10月16日		人材育成セミナー「早期離職防止セミナー」	公益財団法人介護労働安定センター	新潟県立図書館	1	特養
10月18日		令和元年度長岡市地域密着型サービス管理者研修会	長岡市福祉保健部介護保険課	アオーレ長岡	1	GHせったや
10月28日		新潟県福祉サービス第三者評価セミナー	新潟県福祉保健部・福祉指導課	新潟県自治会館	1	DSせったや
10月30日		令和元年度第1回研修会	新潟県社会福祉法人経営者協議会	長岡市地域交流センター まちなかキャンパス長岡	1	法人本部
11月13日		人材育成セミナー「リーダーのための関係の質を向上させるコミュニケーション研修」	公益財団法人介護労働安定センター	新潟県立図書館	1	特養
11月15日		企画研修 第5回研修会	新潟県老人福祉施設協議会	燕三条地場産センターメッセピア	1	DS岡南
11月27日		2019年度スキルアップ研修「介護リーダーとしての部下への関わり方・新人の育て方」	エイシン福祉教育センター	新潟医療福祉カレッジ	2	特養、DS岡南
12月11日		人材育成・定着セミナー	新潟県社会福祉協議会	新潟ユニゾンプラザ	1	特養
小計		24			35	

2 職種別専門研修

(1) 看護職員

期間(自)	期間(至)	研修の名称	実施団体	開催地	人数	事業所
7月18日		看取りケアセミナー	公益財団法人介護労働安定センター	ビックスワンスタジアム	1	特養
12月16日		2019年度スキルアップ研修「介護職の終末期ケア」	エイシン福祉教育センター	新潟医療福祉カレッジ	1	特養
小計		2			2	

(2) 生活相談員

期間(自)	期間(至)	研修の名称	実施団体	開催地	人数	事業所
10月4日		2019年度福祉関係者のための成年後見活用講座ステップアップ編	公益社団法人新潟県社会福祉士会	燕三条地場産センター	1	特養
12月12日		令和元年度介護サービス研修会「高齢者虐待対応研修」	長岡市長寿はつらつ課	長岡市立劇場	1	特養
小計		2			2	

(3) 機能訓練指導員・介護職員

期間(自)	期間(至)	研修の名称	実施団体	開催地	人数	事業所
5月24日		企画研修第1回研修会	一般社団法人新潟県老人福祉施設協議会	新潟県ユニゾンプラザ	1	特養
5月24日		2019年度スキルアップ研修「好印象を与える介護職の接遇・マナー」	エイシン福祉教育センター	新潟医療福祉カレッジ	1	特養
6月5日	6月6日	平成31年度介護職員のための腰痛を防止する会議技術コース①	新潟県立新潟テクノスクール	新潟テクノスクール	3	特養、DS岡南
6月28日		2019年度スキルアップ研修「介護職員のための成年後見制度の理解」	エイシン福祉教育センター	新潟医療福祉カレッジ	1	DS岡南

6月29日		介護技術研修会	公益社団法人新潟県介護福祉士会	長岡介護福祉専門学校あゆみ	2	GHこうなん、DSせったや
7月3日	8月30日	第2回認知症介護実践者研修(長岡会場)	新潟市福祉保健部高齢福祉保健課	長岡三古人福祉会研究・研修センター長岡	1	GHこうなん
7月11日	9月18日	第3回認知症介護実践者研修(下越会場)	新潟市福祉保健部高齢福祉保健課	新発田市カルチャーセンター	1	特養
7月22日	1月16日	養介護施設従事者等による高齢者虐待防止研修会①	新潟県長岡地域振興局健康福祉環境部地域保健課	長岡市中央公民館	2	GHこうなん、GHせったや
7月27日		考えてみましょう～感情労働と不適切ケアから見た高齢者虐待について	公益社団法人新潟県介護福祉士会	新潟ユニゾンプラザ	1	特養
7月30日	9月27日	第4回認知症介護実践者研修(上越会場)	新潟市福祉保健部高齢福祉保健課	米岡の郷	1	特養
9月5日		アンガーマネジメント実践講座	一般社団法人新潟地域福祉協会	新潟ユニゾンプラザ	1	特養
9月17日	10月2日	介護福祉士養成実習施設・実習指導者特別研修	公益社団法人新潟県介護福祉士会	新潟ユニゾンプラザ	1	特養
9月18日	11月27日	令和元年度新潟県認知症介護実践リーダー研修	新潟市福祉保健部高齢福祉保健課	長岡三古人福祉会研究・研修センター長岡	2	GHこうなん、DS岡南
10月17日		介護職のための薬の知識	公益財団法人介護労働安定センター	新潟テルサ	3	特養、DS岡南、DSせったや
10月26日		第35回パワーリハビリテーション研究会新潟県支部主催研修	パワーリハビリテーション研究会新潟県支部	長岡三古人福祉会研究・研修センター長岡	1	DS岡南
10月30日		外国人技能実習生入国後講習「見学会」 スライディングシート・リフトを使った優しい動作／移動介助	(有)スマイル	柏崎市産業文化会館	1	特養
11月15日		楽しく効果的なレクリエーション研修	公益財団法人介護労働安定センター	新潟市東区プラザ	3	特養、DS岡南、DSせったや
11月20日		明日からすぐ職場で活かせる「実技で機能訓練を学ぶ」セミナー	絆コーポレーション	新潟ユニゾンプラザ	1	DS岡南
12月1日		持ち上げない介護技術研修会	公益社団法人新潟県介護福祉士会	長岡介護福祉専門学校あゆみ	1	特養

12月10日		令和元年度介護サービス研修会「高齢者虐待対応研修」	長岡市長寿はつらつ課 長岡市地域包括支援センター	さいわいプラザ	1	居宅、GHせったや
12月14日	12月15日	第1回新潟県リハビリテーション専門学術大会	新潟県理学療法士会、新潟県作業療法士会、新潟県言語聴覚士会	朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター	1	DS岡南
1月22日		2019年度スキルアップ研修「介護に役立つ薬と病気の知識」	エイシン福祉教育センター	新潟医療福祉カレッジ	2	DS岡南、DSせったや
2月13日		2019年度スキルアップ研修「今日から使える伝わるケース記録の書き方」	エイシン福祉教育センター	新潟医療福祉カレッジ	1	特養
小計		23			33	

(4) 介護支援専門員

期間(自)	期間(至)	研修の名称	実施団体	開催地	人数	事業所
5月16日		どうしてる？「医療との連携」～ケアマネの情報は病院で活かされている！～	川東地区居宅共同研修会企画委員	長岡中央総合病院	1	居宅
6月11日		他法人との共用研修会	居宅介護支援事業所まちだ園	特別養護老人ホーム岡南の郷	1	居宅
6月13日		公開模擬担当者会議	崇徳構成事業団すとか・こぶし認知症ネット推進委員会	崇徳厚生事業団本部棟	5	居宅
6月19日		令和元年度第1回認定調査従事予定者の新規研修	新潟県南魚沼地域振興局健康福祉環境部	新潟県南魚沼地域振興局健康福祉環境部	1	特養
6月26日		2019年度福祉関係者のための成年後見活用講座・入門編	公益社団法人新潟県社会福祉士会	燕三条地場産センター	2	GHこうなん、居宅
7月8日	8月22日	令和元年度新潟県介護支援専門員「更新研修」・「専門研修」(専門研修過程Ⅰ)	一般社団法人新潟県介護支援専門員協会	朱鷺メッセ、ハイブ長岡	2	居宅、GHせったや
7月11日		令和元年度 第1回災害対応研修	一般社団法人新潟県介護支援専門員協会	新潟ユニゾンプラザ	1	居宅
7月18日		看取りケアセミナー	公益財団法人介護労働安定センター	ビックスワンスタジアム	1	特養
7月23日		令和元年度 施設介護支援専門員研修会	一般社団法人新潟県介護支援専門員協会	新潟ユニゾンプラザ	1	特養

7月31日		合同シンポジウム「在宅生活の継続を支援するために」	一般社団法人新潟県介護支援専門員協会	新潟ユニゾンプラザ	3	居宅
8月20日		令和元年度長岡市介護支援専門員研修会	長岡市福祉保健部介護保険課	さいわいプラザ	1	居宅
9月11日	10月28日	令和元年度新潟県主任介護支援専門員研修	一般社団法人新潟県介護支援専門員協会	ハイブ長岡	1	居宅
10月24日		令和元年度新潟県介護支援専門員実務研修実習指導事前研修	一般社団法人新潟県介護支援専門員協会	新潟テルサ	1	居宅
10月29日		認定調査員現任研修	長岡市福祉保健部介護保険課	朱鷺メッセ	2	特養
11月7日	11月8日	令和元年度「地域同行型研修指導者育成研修」	一般社団法人新潟県介護支援専門員協会	魚沼市小出ボランティアセンター	1	居宅
11月12日	11月29日	令和元年度新潟県介護支援専門員「更新研修」・「専門研修」(専門研修課程Ⅱ)	一般社団法人新潟県介護支援専門員協会	ハイブ長岡	1	GHせったや
11月16日		令和元年度認知症サポート医・かかりつけ医フォローアップ研修	新潟県長岡地域振興局健康福祉環境部	長岡市医師会館	1	居宅
12月14日		第3回多職種連携に向けた勉強会「地域包括ケアにおける薬局・薬剤師の役割～外科医が薬局に帰って見えてきたもの～」	長岡市地域包括ケア推進協議会、長岡市薬剤師会	パストラル長岡	1	居宅
12月10日		令和元年度介護サービス研修会「高齢者虐待対応研修」	長岡市長寿はつらつ課 長岡市地域包括支援センター	さいわいプラザ	1	居宅、GHせったや
1月11日		令和元年度長岡地域介護支援専門員協議会第2回定期研修会	長岡地域介護支援専門員協議会	さいわいプラザ	1	居宅
2月27日		お薬相談会	長岡市薬剤師会	長岡市薬剤師会館	2	居宅
小計		21			31	

(5) 事務員 ・ 栄養士

期間(自)	期間(至)	研修の名称	実施団体	開催地	人数	事業所
9月15日	9月17日	社会福祉法人会計実務講座入門コース	社会福祉法人全国社会福祉協議会中央福祉学院	中央福祉学院	1	法人本部

9月24日		地域別多職種交流会	長岡市地域包括支援センターみやうち・やまこし	長岡市高齢者センターみやうち	1	本部
小計		2			2	
職種別専門研修 合計		50			70	
総合計		74			105	